

「教学 IR」というものを知る データベースから有用な情報を引き出す

主催：情報処理課 共催：札幌学院大学 FD センター
 日時：2015年2月13日（金）13:30～15:00
 会場：C館2階セミナールーム（Collaboration Center）
 対象：本学の教職員（事前の申し込みは不要です）



本学では、学生の情報を一元的なデータベースで管理しています。ここには、入試関係情報や履修・成績情報などが蓄積されています。一方、毎年「新入生意識調査」や「学修行動調査」を実施していますが、記名式（＝学籍番号を記入する方式）で実施していますので、データベースと紐づけることができます。これによって、データベースと学生調査を組み合わせ、多様な観点から学生の状態を把握し、あるいは経年変化を把握することが可能となっています。

このような学生の状態把握を含め、大学の諸活動のデータを収集し、分析して現状を評価し、それを大学改革に活かす取組は「IR」（Institutional Research：機関研究）と呼ばれ、近年注目されています。そして、特に学生の入学前の状態、学修の成果、就職状況、卒業後調査などを組み合わせて教育の現状を分析し、教学改革につなげるような取組を「教学 IR」と呼ぶようです。

本学でも昨年7月、学長のもとに「教学 IR プロジェクト」を設置しました。その趣旨は、大学の教育活動を横断的に捉え、客観的に分析し、人材育成の現状を把握して、改善へと繋げる体制を構築することにあります。「教学 IR プロジェクト」はその準備として、入学前から入口・中身・出口、卒業後まで、トータルな視点からデータを収集し、人材育成と学生支援の現状を把握するための試行を行う役割を担っています。

今回のFD研究会では、富士通株式会社の協力を得て、学生情報データベースから引き出したデータを使って現状を把握する取組について、他大学の事例を紹介いただきます。デモデータを使った実演を通じて、「教学 IR」なるもののひとつのイメージを描いてみたいと思います。

プログラム概要：

13:30～15:00 事例紹介「学生情報データベースから引き出したデータの活用」
 質疑応答

本学の学生情報データベースは、富士通株式会社が提供する大学事務パッケージシステム「Campusmate-J」によって管理されています。なお、学生指導シート「はぐくみ」は、このデータベースから必要な情報を抽出し、指導上の権限に従って学生情報の閲覧を可能とするシステムです。

問い合わせ先：FD センター事務局（教務課・内線 3111）

会場は、新設した Collaboration Center です（C館2階の右奥「多目的セミナールーム」）。

